

パブリックコメント結果

No	パブコメ 頁	修正後 頁	項目	意見内容	修正対応方針
1	13	12	洪水・高潮・土砂災害・風害	○瞬間最大風速70m/sを越える暴風雨の継続による・・・ 空路・海路等をもっと低い風速で運休の判断がなされるのではないか？具体的な例としての取り上げ方に疑問である。	⇒ 意見を参考に「瞬間最大風速70m/sを越える」を削除いたします。
2	14	14	エ、健康危機	狂犬病という、すべてのほ乳類に感染し、人間と犬は致死率100%の感染症が抜けています。すぐお隣の台湾や中国で発生しています。船の往来により、いつ島に感染動物が入ってくるかわかりません。しかも島内の犬の狂犬病予防接種率は全国でも最低レベル。いったん感染が始まったら、ひとたまりもなく、島内は阿鼻叫喚の地獄となるでしょう。 人間が感染した犬に噛まれた場合、潜伏期間内にワクチンを複数回打たなければ死にます。島内の病院にワクチンがありますか？ もし狂犬病が島内で発生したら、観光どころではありません。その恐ろしさはコロナの比ではないからです。島内の複数病院に人間用ワクチンを備蓄すべきです。	⇒ 感染症に含まれることから特に修正無し。 本市の観光産業等に影響を与える様々な感染症が発生した場合は、既存の市感染症対策本部等と連携しながら対策にあたります。
3	15	15	カ、県外・市外で発生した災害危機	・口蹄疫や狂牛病が例示されているが、ここ数年多いのは「鳥インフルエンザ」の流行ではないか？ ○台湾での原発事故の例示と家畜伝染病を同列例示はそぐわない、人的危機例示と自然的伝染病の例示は分けた方がよいとおもう。	⇒ 意見を基に以下で整理・修正 ○台湾での原発事故 ○近隣諸国で鳥インフルエンザや口蹄疫、狂牛病等の発生
4	18	21	ア、石垣市の体制	「(仮称)石垣市観光危機管理プラットフォーム」(後述)という表記でなく(19ページ)と注釈ページで示した方が良い。	⇒ 意見どおりページ番号を入れる形で対応いたします。
5	21	28	平時の減災対策：観光危機自体の発生防止、被害軽減のための安全対策の実施	まずは、市内の標識を正しく、読めるものにすべき！文字が剥げてしまい読めないものが多数ある。未だに古い市庁舎の位置を案内する標識もある。観光者が被災した場合に、正しく避難できるためには、正しくそして読める標識が必須である。また、道路が汚い！歩道が雑草で覆われてしまい、歩行困難な場所が散見される。災害に強い街は、綺麗である。ゴミが投げ捨てられていたり、片付けられていない道は緊急時にトラブルが必ず起こる！	⇒ 記載修正は特に無し。 本計画に従って関係部署と連携し、減災対策のために標識の修繕等を実施していきます。
6	26	37	命を守る緊急避難段階：避難指示等の発令避難誘導	どのような手段をもって市民および観光客へ緊急事態を伝えるのか？島内放送といった古い手段を用いるのか？もしくは、スマホのアラーム機能や石垣島独自のアプリを開発して観光客に入島時にダウンロードしてもらい、その機能を使うのも一法か？	⇒ 記載修正は特に無し。 現在は、エリアメールや防災無線等が中心となりますが、今後協議を重ね複合的な伝達方法をプラットフォームで協議していきたいと思えます。

7	27	38	命を守る緊急避難段階：避難所等の開設	災害により発生した傷病者への対応は、どのように考えているのか？島内の医療ソースは限られており、かつ本島へ緊急搬送が必要になった場合の対応は誰がどのように対応するのか？	⇒	記載修正は特に無し。 災害発生時は、国・県、民間医療チーム等と協力して傷病者の対応にあたります。本島への搬送は主に自衛隊機が対応することとなっております。
8	30	41	竹富町・与那国町 命を守る緊急避難段階	竹富町での被災は悲惨なものとなり、緊急性のある救助・救出が必要となると考えられるが、石垣市としてはどのような役割を考えているのか？特に傷病者への搬送および医療体制についてについて！	⇒	記載修正は特に無し。 石垣市災害対策本部と竹富町災害対策本部が連携しながら対応を行います。竹富町の離島から石垣市へ緊急性のある傷病者の移送について、自衛隊機等による搬送訓練などを通じて対応力強化を図っています。また甚大災害時はDMAT等へ派遣要請を行い医療体制の強化が行われます。
9	33	44	宿泊事業者 津波警報等解除・安否を確認する段階 体調不良者への対応	「体調不良者や負傷者などを一時的に受け入れ、応急対応などを実施する」とあるが、宿泊業者は直ぐに病院へ搬送するであろう。が、病院の医療供給体制には限界があり、対応は困難となると思われる。島外への緊急患者搬送について、どのような手段を用意しているのか？	⇒	記載修正は特に無し。 NO7と同じ
10			パブリックコメント募集期間について	パブリックコメント募集期間の告知新聞記事掲載から一週間で締め切るやり方では、多くの市民から意見を求める姿勢としては、とても疑わしく思います。危機管理計画の実働は「市民」です。多くの市民にしっかりと読んでもらって、一人ひとりがいざというときに、各自でできる役割を担ってもらうことが必要です。再度、募集期間を多くの市民や関係機関に周知を図って集約に努めて欲しいと願います。	⇒	記載修正は特に無し。 パブリックコメントは2月7日～2月25日の3週間実施いたしました。市HPでの公表のほか、市立図書館、健康福祉センター、市政情報センター、観光文化課カウンターにパブリックコメント一式を設置しました。また、2月8日、2月22日の2回、本市公式LINEおよびFace Bookにて周知を実施し、2月9日の地元紙にパブリックコメント開始の記事を掲載して頂いております。
11			総括意見	計画の内容は、理論的な危機管理計画にとどまっているように思います。近年の地震や津波、集中豪雨等による災害への対処など、多くの実例が毎日のようにラジオや新聞等で報じられています。その中で注目されるのは、災害時に即座に動く防災リーダーの重要性です。今各地では「地域防災リーダー」の養成に努めています。その事が、全く触れられていないように思いました。プラットフォームを設けても、防災リーダーがいなければ絵に描いた餅になります。災害はどのような状況で発生するか、予測がつくものと、つかないものがあります。予測がつかない災害を最重要視して、防災リーダーは災害発生時に自分がいるところでのリーダーシップを果たしてもらおう。その事によって、地域パニックを防ぐことができるものです。地域に住んでいる人々を安心して災害から守る行動、そして来島者・観光客等を島の在住者がサポートする体制をつくっていくことです。組織化して体制づくりも大切で	⇒	記載修正は特に無し。 プラットフォームでの連携や訓練等を通じて市全体の防災・危機対応力を高めることは、基本的に人を育てることであると認識しております。訓練などを重ねることによって各所の責任者のみならず全員の防災・危機対応力を高めることが本計画の意図しているところです。